CASIO

P

DQC-120J

取扱説明書

このたびは弊社製品をお買い上げくださいまして誠にありがとうございます。
末長くご愛用いただくために、この説明書をよくお読みいただき、正しくお取り扱いくださいますようお願いいたします。
本機を安全に正しくお使いいただくための注意事項「安全上のご注意」を本書に記載しています。本機をご使用になる前に、必ずお読みください。なお、この取扱説明書は大切に保管し、必要に応じてご覧ください。

カシオ計算機株式会社
〒 151-8543 東京都渋谷区本町 1-6-2

本機の特長

- 電波時計（国内２局対応自動選局機能付）
  福島県「おおたかどや山」（40kHz）
  佐賀県と福岡県の境「はがね山」（60kHz）
- 週間カレンダー表示
- ウィークリーリマインドアラーム（予定報知）機能
- 休日（祝日）表示
- センサーにより、温度・湿度を表示
- アラーム／スヌーズアラーム（一度止めても再び鳴ります）
- LED ライト

ご使用上の注意

- 本機は精密な電子部品で構成されていますので、「極端な温度条件下」、「強い磁気の当たる場所」、「はげしい振動のある場所」での使用や保管および「強いショック」をさけてください。
- 高温では電池寿命が短くなったり故障の原因になったりしますので、暖房器具の近くや直射日光の当たる所では使用しないでください。
- 浴室など湿気の多い場所では使用しないでください。
- 以下のようなところに本機を置くことはお避けください。
  ・テレビの上など（テレビ画面に色むらが起こる場合があります）
  ・時計、キャッシュカード、フロッピーディスク、プリペイドカード、カセットテープの近くなど
- 極度の静電気により誤った表示をしたり、電子部品が破損する場合があります。
- 静電気により一時的に液晶の点灯していない部分ににじみ現象が発生することがありますが、機能に影響はありません。
- 本機を分解しますと、精度や機能が低下しますので、絶対に分解しないでください。
- 汚れは、「乾いた柔らかい布」か「中性洗剤に浸し固くしぼった布」でおふきください。シンナー・ベンジンなどの揮発油やアルコール類では絶対にふかないでください。
- 液晶表示は、使用温度範囲（0℃～ 40℃）を超えると、表示が見にくくなることがあります。
- 液晶表示は、見る方向によって表示が見にくくなることがあります。
- 本機が受信できる電波は「日本の標準電波だけ」です。ただし、日本以外の地域で使用している場合でも、まれに日本の標準電波を受信して自動的に日本の時刻に修正することがあります。日本以外の地域でご使用になる場合は、本機の電波受信機能をオフ（電波を受信しない状態）にしてください。

万一、本機使用中や故障により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

電源に関するご注意

- 電池の残量が残っている場合でも３年に１回は全部の電池を交換してください。
- 電池が消耗しますと一般的に以下のようなことが起こります。このようなときは長時間放置せず、速やかに新しい電池と交換してください（定期的な交換をおすすめします）。
  ➡ 誤動作（時刻やアラーム等のリセット、報音の停止、時刻狂いなど）することがあります。
  ➡ 液晶表示は「薄くなったり」「消えたり」します。
  ➡ アナログ時計は「時計が遅れたり」「針が止まったり」します。
- 付属の電池は充電式ではありません。絶対に充電しないでください。
- お買い上げ時に付属している電池はモニター用電池＊のため、電池新品時の電池寿命に満たないうちに切れることがあります。
  ＊ モニター用電池とは時計の機能や性能をチェックするための電池のことで、時計本体価格に電池代は含まれておりません。
- 電池が液漏れを起こした場合は液に触れずにすぐにふきとってください。

安全上のご注意

絵表示について

本書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、色々な絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

絵表示の例

△ 記号は「気をつけるべきこと」（注意）を意味しています（左の例は感電注意）。

⃠ 記号は「してはいけないこと」（禁止）を意味しています（左の例は分解禁止）。

● 記号は「しなければならないこと」（強制）を意味しています（左の例は電源プラグをコンセントから抜く）。

⚠ 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠ 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⚠ 注意

分解しないでください

本機を分解しないでください。ケガをしたり、本機が故障する原因となることがあります。

設置場所について

本機を不安定な場所に置いたり、不確実な掛け方をしないでください。倒れたり、落ちたりしてケガや故障の原因となることがあります。

湿気やほこりの多い場所には置かないでください。火災の原因となることがあります。

台所や加湿器のそばなど、油煙や湯気が当たる場所には置かないでください。火災の原因となることがあります。

電池について

電池は使い方を誤ると液漏れによる周囲の汚損や、破裂による火災・ケガの原因となることがあります。次のことは必ずお守りください。
- 極性（⊕と⊖の向き）に注意して正しく入れてください。
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
- 種類の違う電池を混ぜて使用しないでください。
- 長時間使用しないときは、本体から電池を取り出しておいてください。
- 本機で指定されている電池以外は使用しないでください。

電池の着脱を長く伸ばした爪で行なうと、思わぬケガをおこす恐れがありますので、長く伸ばした爪での着脱はおやめください。

時計が止まった場合は、速やかに電池を交換してください。また、使用しないときは電池をはずしておいてください。

⚠ 警告

袋をかぶって遊ばないでください

製品本体が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、手の届かない所に保管または廃棄してください。窒息の原因となります。

電池の取り扱いについて

使用している電池を取り外した場合は、誤って電池を飲むことがないようにしてください。特に小さなお子様にご注意ください。

電池は小さなお子様の手の届かない所へ置いてください。万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

電池は、充電や分解、ショートする恐れのあることはしないでください。また、加熱したり火の中へ投入したりしないでください。

製品仕様

水晶発振周波数：32,768Hz
表示内容：カレンダー表示（年・月・日）
　時刻表示（時・分・秒）、午後マーク／
　24 時間制表示（24H）、温度表示、湿度表示
週間カレンダー：日曜～土曜日の 1 週間表示
　休日表示（国民の祝日）
ウィークリーリマインド／アラーム（予定報知）機能：曜日毎に予定 3 件（最大 21 件）
電波受信機能：自動受信（毎時 1 分）、手動受信
　自動選局機能
　［受信電波＝長波標準電波　JJY
　周波数＝ 40kHz ／ 60kHz］
精度：電波受信による時刻修正が行なえない場合は、平均月差± 30 秒以内
温度計測機能：計測範囲＝ 0℃～ 40℃ *1
　計測精度＝± 2℃（0℃～ 40℃）*2
　• 1 分に 1 回計測します。*3
湿度計測機能：計測範囲＝ 10%～ 90%
　（0℃～ 49.9℃において結果表示）*4
　計測精度＝± 10%（0℃～ 40℃）
　（例　湿度 50%の場合、40%～ 60%となります）*2
　• 1 分に 1 回計測します。*3
アラーム機能：セット単位＝分
　報音時間＝ 1 分間
　電子音アラーム＝通常アラーム
　スヌーズアラーム
　（約 5 分おきに、最大で 7 回報音）
　デモアラーム（アラーム音の試聴）
その他：12 ／ 24 時間制表示切替え、コントラスト調整、LED ライト
主要回路素子：音叉型高性能水晶振動子、CMOS-LSI
使用温度：0℃～ 40℃
使用電池：単 3 形アルカリ乾電池　2 個
電池寿命：約 3 年（電波受信 24 回／日、ライト 5 秒間／日、アラーム報音 1 分間／日　使用した場合）

*1 ＝
- －0.1℃以下、40.1℃以上でも温度計測を行ないますが、本機の温度保証範囲外となります。
- －20℃以下は “LO” 表示、50℃以上は “HI” 表示となります。

*2 ＝ 温度・湿度表示は時計に内蔵されているセンサーにより、時計内部の温度・湿度を計測／表示するものです。そのため、急激な変化が起きても、その温度や湿度を表示するまで（時計内部がその温度や湿度と同じになるまで）約 30 分程度かかります。なお、計測機能上、本機を冷・暖房器具の送風口の近くで使用しないでください。

*3 ＝ 電波受信中、LED ライト点灯中、報音中は計測を中断します。

*4 ＝
- 9%以下は “LO” 表示、91%以上は “HI” 表示となります。
- 湿度表示は温度が 0℃～ 49.9℃の範囲外では “－－” 表示となります。

電波時計について

● 電波時計とは

正確な時刻情報［日本標準時］をのせた長波標準電波（JJY）を受信することにより、正しい時刻を表示する時計です。

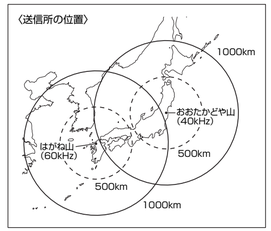
日本標準時：日本の時刻のもとになるもので、テレビの時報などに利用されています。この標準時は「セシウムビーム型原子周波数標準器」等により制御されています。

電波時計は正確な日本標準時を受信していますが、時計内部の時刻演算処理等により、時刻表示に 1 秒未満のずれが生じます。

● 標準電波

標準電波は独立行政法人情報通信研究機構（NICT）が運用しており、福島県の「おおたかどや山」（40kHz）および佐賀県と福岡県の境の「はがね山」（60kHz）から送信されています。
この標準電波はほぼ 24 時間継続して送信されていますが、保守作業や雷対策等で一時送信が中断されることもあります。

● 電波の受信範囲の目安



条件の良いときは、送信所からおよそ 1000km 離れた場所でも受信することができます。
- ただし、約 500km を超えると電波が弱くなるので、受信しにくくなることがあります。
- 受信範囲内であっても、地形や建物の影響を受けたり、季節や天候、使用場所、時間帯（昼／夜）などによって受信できないことがあります。
- 電波の特性により、夜間の方がより受信しやすくなります。

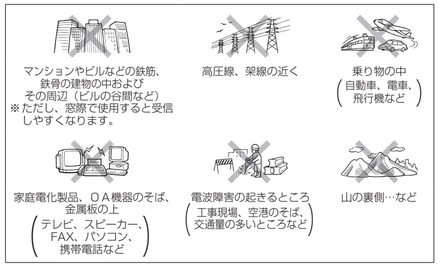
- 一般的に送信所からの距離が近い方の電波が受信しやすいと考えられますが、電波環境や使用場所によっては、送信所からの距離が遠い方の電波が受信しやすい場合があります。

● 電波受信について

本機は「おおたかどや山」（40kHz）と「はがね山」（60kHz）の 2 局より受信しやすい方の電波を自動的に選択し受信を行ないます（自動選局機能）。通常は毎日、電波受信を自動的に行ないます（自動受信）。

● 使用場所について

本機は、テレビやラジオなどと同様に、電波を受信するものです。本機を使用するときは、「電波を受けやすい」部屋の窓際などでご使用することをおすすめします。
以下のような場所では、電波を受信しにくくなりますので、このような場所は避けて本機をお使いください。

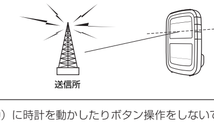


● 正しく電波受信するために

- 電波受信できる場所でお使いください（「使用場所について」参照）。
- 本機を電波送信所方向に向けると、受信しやすくなります（本機に内蔵されている受信アンテナと電波送信所が垂直方向になるようにすると、最も受信しやすくなります）。

最も受信しやすい設置のしかた

・時計表示部または裏面を電波送信所に向かい合うようにする
・金属板の上などを避けて窓際で行なう



- 受信中（受信インジケーター表示中）に時計を動かしたりボタン操作をしないでください。
- ボタン操作で現在時刻を修正すると、以後 24 時間自動受信は行ないません。ただし、この間に手動受信を行なうと、その時点で解除されます。
- 電波受信を行なわない間は、「製品仕様」記載の精度で計時します。
- 電波障害により、誤った信号を受信することがあります。
- 電波の自動受信は、1 日 24 回（毎時 1 分）行ないます。
  ただし、下記の場合は、自動受信は行ないません。
  - アラームがオンになっている
    設定している「アラーム時刻と同じ時刻台」の自動受信は行ないません。
    例：アラームがオンでアラーム時刻を午前 6 時 15 分に設定しているときは、午前 6 時 1 分の自動受信は行ないません。
  - 時刻／カレンダーの「セット状態」になっている
  - 祝日の「セット状態」になっている
  - ウィークリーリマインドアラームの「セット状態」になっている
  - アラーム時刻の「セット状態」になっている
  - カレンダーサーチ実行中
  - ウィークリーリマインドアラームの報音中
  - アラームの報音中
  - ライト点灯中

はじめてお使いになるときは（電池交換時もご覧ください）

「各部の名称と表示の見方」も一緒にご参照ください。

1 「表示用シール」を取り外します

機種によりデジタル表示部に「表示用シール」をつけて出荷しております。
ご使用の前に必ずこの「表示用シール」を取り外してください。

2 電池を入れます

電池ブタを開き、⊕ ⊖の向きに注意して、電池を正しく入れます（「電池交換のしかた」参照）。

3 リセット操作を行ないます

⑤ ボタンを押します。

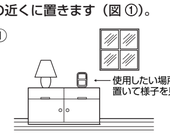
デジタル表示部が「午後 12：00 00」になります。
「午後 12：01 00」になると自動的に電波受信を開始します。

- 電池を入れた時点で時計としての動作が始まっていますが、そのままリセット操作をしてください。
- 先端の細いもので押してください（製品を傷つけないようご注意ください）。
- リセット操作が終わったら電池ブタを閉じます。

4 電波受信の様子を見ます（使用したい場所の近くに置きます）

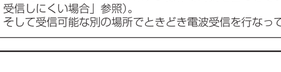
● 使用したい場所の近くに置きます（図 ①）。

図①



● 置いた場所が電波受信しやすいかどうかを受信インジケーターで確認します（図 ②）。

図②



- 電波を受信中は受信インジケーターで受信状態をお知らせします。電波を受信しやすいと多く点灯します（最大 5 個）（図 ②）。
- 受信インジケーターは使用場所を決める際の目安としてお使いいただけます。
- 1 回の電波受信は約 2 ～ 14 分間です。
- 電波を受信中はボタン操作をしないでください（電波受信を終了します）。

5 電波受信の結果を見ます

電波の受信に成功すると “OK” マークと “” マークが点灯します（図 ③）

図③

- “OK” マークと “” マークは正しい時刻が表示されているかどうかの目安になります。
- “” マークは、電波の受信に成功していても午前 2 時と午前 3 時になると一度消灯します。その後、電波の受信に成功すると再び点灯を継続します。
- “受信オフ” マークが表示されている場合は、受信が行なわれません。受信オフ状態を解除してください（「電波受信機能を解除するには」参照）。

● 電波を受信できなかった場合

➡ 数分後に電波の受信を終了します（そのままの時刻で計時されます）。
➡ 受信状態が不安定で、時刻や月日の一部が修正されることがあります（“” マーク不灯）。

上記のような場合は「電波を受信しにくい場合」をご参照ください。

● 1 ～ 2 週間電波受信の様子を見ます

電波受信は地形や建物の影響を受けたり、季節や天候、使用場所、時間帯（昼／夜）などによって変わります。
1 ～ 2 週間様子を見ることをおすすめします。

“” マークが常に点灯している、または点灯している時が多い
➡ そのまま、その場所でお使いになれます。

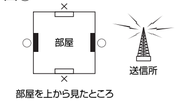
“” マークが全く点灯しない、またはときどきしか点灯しない
➡ その場所では電波受信しにくいので、向きや場所を変えてください。
➡ その場所で使用する場合は ボタン操作で時刻を合わせてご使用ください（「電波を受信しにくい場合」参照）。
そして受信可能な別の場所でときどき電波受信を行なってください。

電波を受信しにくい場合

● 電波を受信しにくい場合

電波受信は地形や建物の影響を受けたり、季節や天候、使用場所、時間帯（昼／夜）などによって変わります。
「使用場所について」および**「正しく電波受信するために」**もご参照の上、**＜電波受信の方法＞**を試して 1 ～ 2 週間様子を見てください。

図④



＜電波受信の方法＞
本機の向きや場所を変えて ⑧ ボタンを押してください（再度、電波受信を行ないます）（図 ④）。

● 電波を受信しにくい状態がつづく場合

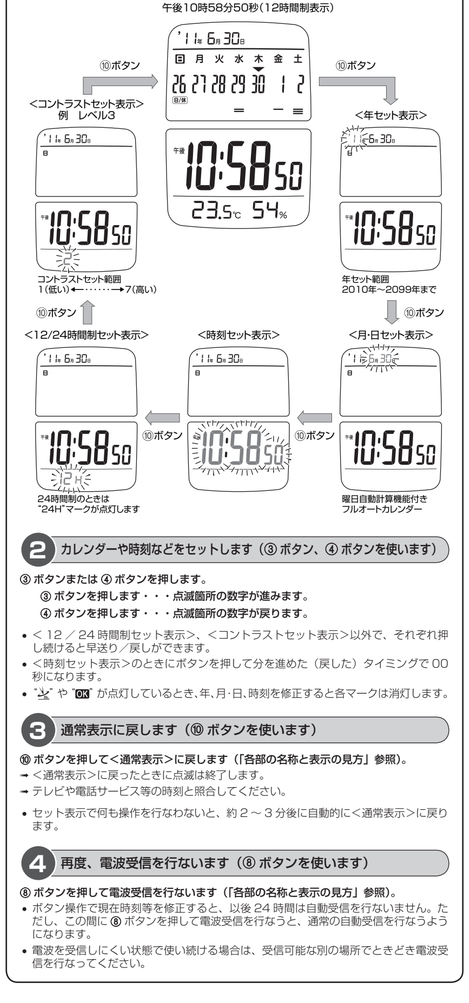
カレンダーや時刻等をボタン操作でセットして使用します（「各部の名称と表示の見方」も一緒にご参照ください）。

- ＜カレンダーサーチ表示＞（“サーチ” マーク点灯）になっている場合は、③ ボタンと ④ ボタンを同時に押して＜通常表示＞にしてください（「カレンダー機能の使い方」参照）。

1 セット状態に切り替え、セットする項目を選びます（⑩ ボタンを使います）

⑩ ボタンを押すごとに以下の順で表示が切り替わります（「各部の名称と表示の見方」参照）。
➡ 各表示の点滅箇所がセットできます。

＜通常表示＞
例　2011年 6月30日　木曜日
　　午後10時58分50秒（12時間制表示）



2 カレンダーや時刻などをセットします（③ ボタン、④ ボタンを使います）

③ ボタンまたは ④ ボタンを押します。
③ ボタンを押します・・・点滅箇所の数字が進みます。
④ ボタンを押します・・・点滅箇所の数字が戻ります。

- ＜ 12 ／ 24 時間制セット表示＞、＜コントラストセット表示＞以外で、それぞれ押し続けると早送り／戻しができます。
- ＜時刻セット表示＞のときにボタンを押して分を進めた（戻した）タイミングで 00 秒にします。
- “” や “OK” が点灯しているとき、年、月・日、時刻を修正すると各マークは消灯します。

3 通常表示に戻します（⑩ ボタンを使います）

⑩ ボタンを押して＜通常表示＞に戻します（「各部の名称と表示の見方」参照）。
➡ ＜通常表示＞に戻ったときに点滅は終了します。
➡ テレビや電話サービス等の時刻と照合してください。

- セット表示で何も操作を行なわないと、約 2 ～ 3 分後に自動的に＜通常表示＞に戻ります。

4 再度、電波受信を行ないます（⑧ ボタンを使います）

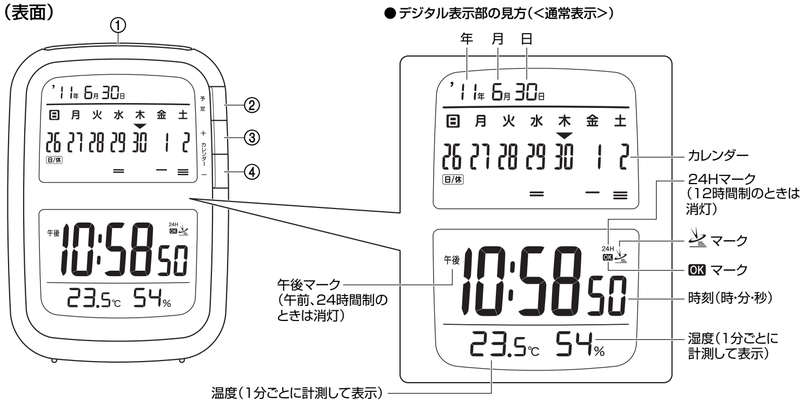
⑧ ボタンを押して電波受信を行ないます（「各部の名称と表示の見方」参照）。

- ボタン操作で現在時刻等を修正すると、以後 24 時間は自動受信を行ないません。ただし、この間に ⑧ ボタンを押して電波受信を行なうと、通常の自動受信を行なうようになります。
- 電波を受信しにくい状態で使い続ける場合は、受信可能な別の場所でときどき電波受信を行なってください。

Printed in China　MA1005-D

各部の名称と表示の見方

（表面）



●デジタル表示部の見方（<通常表示>）

① ボタン（スヌーズ／ライト）
- ライトを点灯するときに押します。約5秒間ライトが点灯します。
- アラーム報音中に音を止めるときに押します。

② ボタン（予定）
ウィークリーリマインドアラーム（予定報知）を設定するときに押します。

③ ボタン（＋）
- カレンダーを進めるときに押します。
- 現在の日付や時刻を合わせるときに押します。
- 12時間制／24時間制を切り替えるときに押します。
- 液晶表示のコントラストを調整するときに押します。

④ ボタン（－）
- カレンダーを戻すときに押します。
- 現在の日付や時刻を合わせるときに押します。
- 12時間制／24時間制を切り替えるときに押します。
- 液晶表示のコントラストを調整するときに押します。

⑤ スイッチ（スヌーズ オン オフ）
アラームのスヌーズ／オン／オフを切り替えるときに使います。

⑥ ボタン（アラームセット）
アラーム時刻を設定するときに押します。

⑦ ボタン（アラームモニター）
- アラームの音を試聴するときに押します。
- 休日設定操作中、休日を消去するときに押します。
- ウィークリーリマインドアラーム（予定報知）設定操作中、ウィークリーリマインドアラームのオン／オフを切り替えるときに押します。

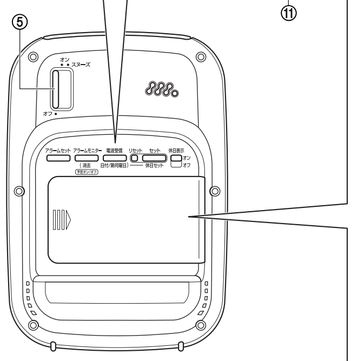
⑧ ボタン（電波受信）
- すぐに電波を受信したいときに押します。
- 休日設定操作中、「日付指定」と「第何曜日指定」を切り替えるときに押します。

⑨ ボタン（リセット）
電池交換後、必ず押します。
- リセット操作がしにくい場合は、先端の細いもので押してください（製品を傷つけないようご注意ください）。
- このボタンを押すと、設定したカレンダー、時刻、休日、ウィークリーリマインドアラームなどが初期値に戻ってしまいます。必要がない場合は押さないでください。押した場合は、これらの再設定が必要になります。

⑩ ボタン（セット）
- 現在時刻などを合わせるときに押します。
- 祝日を確認したいときや、新たに休日を設定するときに押します。

⑪ スイッチ（休日表示）
- 休日表示のオン／オフを切り替えるときに使います。

（裏面）

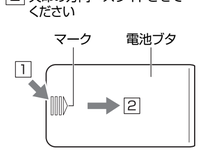


●電池交換のしかた

電池ブタの開け方

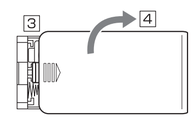
1 マークのあるところを押しながら

2 矢印の方向へスライドさせてください



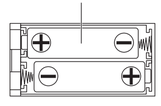
3 下のイラストの位置で止まります

4 はずしてください



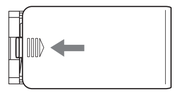
電池の入れ方

単3形アルカリ乾電池　2個



電池ブタの閉め方

はずした位置に置き、傾いていないことを確認して、矢印の方向へスライドさせてください。

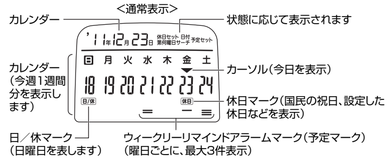


- 図は操作説明用ですので、実際の製品とはデザインなどが異なることがあります。

カレンダー機能の使い方

カレンダーには次の機能があります。
- カレンダーの送り／戻し
- 「国民の祝日」の表示と休日（祝日）設定
- ウィークリーリマインドアラーム（予定報知）の設定と表示

● カレンダー表示部の見方



● カレンダーの送り／戻し

西暦2010年～2099年のカレンダーを送ったり戻したりできます。

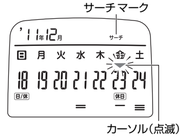
③ ボタンまたは ④ ボタンを押します（「各部の名称と表示の見方」参照）。
③ ボタンを押します・・・・・カレンダーが1日進みます。
④ ボタンを押します・・・・・カレンダーが1日戻ります。

- それぞれ押し続けると早送り／戻しができます。

➡ “サーチ” マークが点灯して<カレンダーサーチ表示>に変わります。

- <通常表示>に戻すときは、③ ボタンと④ ボタンを同時に押してください。
- 2～3分間何も操作を行なわないと、自動的に<通常表示>に戻ります。

<カレンダーサーチ表示>



● 休日の表示と設定

- 日曜日には“日／休”マークが、休日には“休日”マークが表示されます。
- 「休日」として、2010年1月時点の法令などに基づく「国民の祝日」を登録しています。
  国民の祝日：元日（1月1日）、成人の日（1月の第2月曜日）、建国記念の日（政令で定める日）、春分の日（春分日）、昭和の日（4月29日）、憲法記念日（5月3日）、みどりの日（5月4日）、こどもの日（5月5日）、海の日（7月の第3月曜日）、敬老の日（9月の第3月曜日）、秋分の日（秋分日）、体育の日（10月の第2月曜日）、文化の日（11月3日）、勤労感謝の日（11月23日）、天皇誕生日（12月23日）
  （「国民の祝日に関する法律」より抜粋）
- 「春分の日」と「秋分の日」は天文学上の計算に基づいた日付を2030年まで登録していますが、正式な休日としては確定していません。春分の日および秋分の日は、国立天文台が算出する春分日と秋分日を基に当該年の前年に閣議で決定されます。
- 「振替休日 *1」や「国民の休日 *2」にも対応しています。
  *1「国民の祝日」が日曜日に当たるときは、その日後においてその日に最も近い「国民の祝日」でない日を休日とする。（「国民の祝日に関する法律」より抜粋）
  *2その前日及び翌日が「国民の祝日」である日（「国民の祝日」でない日に限る）は、休日とする。（「国民の祝日に関する法律」より抜粋）
- 「国民の祝日」に変更があったときには、「祝日の追加」や「日付の変更（春分の日、秋分の日を除く）」などを行なうことができます。
- ⑪ スイッチが「オフ」の位置になっていると“日／休”マークや“休日”マークが表示されません。⑪ スイッチを「オン」に切り替えてください。
- 電池交換やリセット操作を行なうと、休日の設定が工場出荷時に登録されている2010年1月時点の法令などに基づく「国民の祝日」の内容に戻ります。お買い上げ後にお客様が祝日の追加や日付の変更を行なっていた場合には、あらためて設定し直してください。

休日の設定は、「日付指定」または「第何曜日指定」のいずれかの方法で設定できます。「第何曜日指定」とは、成人の日のように「○月の第何曜日」で指定する方法です。
例として、12月20日を休日に設定する場合と、12月の第4火曜日を休日に設定する場合について説明します。

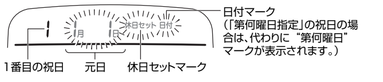
1 <カレンダーサーチ表示>にします

③ ボタンまたは ④ ボタンを押します（「各部の名称と表示の見方」参照）。
➡ <カレンダーサーチ表示>に変わり、“サーチ”マークが点灯します。

2 <休日セット表示>にします

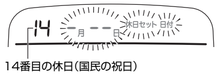
⑩ ボタンを、“休日セット”マークが表示されるまで押します。
➡ <休日セット表示>に変わり、“休日セット”マークと“日付”マークが点滅し、最初の国民の祝日が表示されます。

<休日セット表示>

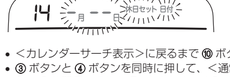


3 休日（国民の祝日）をセットします

ここでは、⑩ ボタンを13回押して、現在何も設定されていない「14番目の休日（国民の祝日）」を表示させます。



＜12月20日を休日に設定する場合＞
③ ボタンまたは ④ ボタンを押して、12月20日（例）を表示させます。
- ③ ボタン、④ ボタンは押し続けると早送り／戻しができます。



＜12月の第4火曜日を休日に設定する場合＞
- 「日付指定」ではなく「第何曜日指定」をするときは、⑧ ボタンを押します。“日付”マークの代わりに“第何曜日”マークが点滅します。
- 12月の第4火曜日が表示されるまで、③ ボタンまたは④ ボタンを押します。
- ③ ボタン、④ ボタンは押し続けると早送り／戻しができます。
- ⑧ ボタンを押すたびに、「日付指定」と「第何曜日指定」が切り替わります。

<第何曜日指定表示>

4 <カレンダーサーチ表示>に戻します

ここでは、⑩ ボタンを7回押します。
➡ 休日の番号が15～20と進み、<休日セット表示>から<カレンダーサーチ表示>に戻ります。
- ③ ボタンと④ ボタンを同時に押して、<通常表示>に戻します。
- 2～3分間何も操作を行なわないと、自動的に<通常表示>に戻ります。
- 設定されている休日を確認するには、手順1～4を繰り返します。上の例では、12月20日を含む14の休日が表示されます。また、表示される順序は、日付の早い順に自動的に並べ変えられます。
- 祝日や設定した休日を消去したい場合は、「休日を消去する」を参照してください。
- 祝日や設定した休日を表示したくない場合は、「休日表示をやめる」を参照してください。

● 休日を消去する

国民の祝日や設定した休日を消去することができます。
「休日の表示と設定」の手順1～4の操作を行ない、消去したい休日番号（1～20）を表示します。
例：14番目の休日を消去します。

⑦ ボタンを押し、選択した休日を消去します。

- <カレンダーサーチ表示>に戻るまで ⑩ ボタンを何回か押します。
- ③ ボタンと ④ ボタンを同時に押して、<通常表示>に戻します。
- 2～3分間何も操作を行なわないと、自動的に<通常表示>に戻ります。

● 休日表示をやめる

国民の祝日や設定した休日の“休日”マーク、および日曜日の“日／休”マークの表示をやめることができます。

⑪ スイッチを「オフ」に切り替えます。
➡ “休日”マークがすべて消えます。
- “休日”マークを表示したい場合は、⑪ スイッチを「オン」に切り替えます。

● ウィークリーリマインドアラーム（予定報知）の設定と表示

曜日ごとに、ウィークリーリマインドアラーム（予定報知）を3件まで設定できます。ウィークリーリマインドアラームを設定した曜日には、その曜日に設定した件数分のウィークリーリマインドアラームマークが表示されます。下の表示例では、毎週水曜日にウィークリーリマインドアラームが2件設定されています。
設定した時刻になると、10秒間報音します。

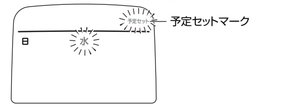
- 「ウィークリーリマインドアラーム（予定報知）機能のウィークリーリマインドアラーム時刻」と「アラーム機能のアラーム時刻」が同じ場合は、「アラーム機能の報音」が優先されます。
- 「アラーム機能のスヌーズアラーム」が報音動作を開始した場合、スヌーズアラーム機能が終了するか解除されるまで、「ウィークリーリマインドアラーム（予定報知）機能の報音」は行なわれません。

ウィークリーリマインドアラーム（予定報知）の設定例として、水曜日にウィークリーリマインドアラームを2件設定する場合について説明します。

1 <ウィークリーリマインドアラームセット表示>に切り替え、設定する曜日を選びます

② ボタンを押します。
➡ <通常表示>から<ウィークリーリマインドアラームセット表示>に切り替わり、“予定セット”マークが点滅します。
- ③ ボタンまたは ④ ボタンを押して、水曜日を表示させます。

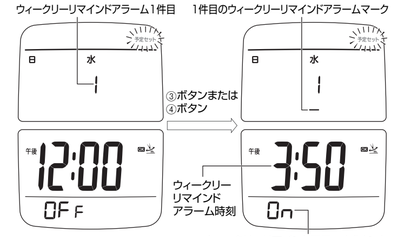
<ウィークリーリマインドアラームセット表示>



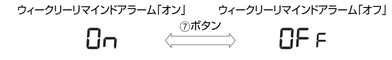
2 1件目のウィークリーリマインドアラーム時刻を設定します

② ボタンを押します。
➡ ウィークリーリマインドアラーム1件目を示す“1”が表示され、時刻は“午後12：00”が表示されます。

③ ボタンまたは ④ ボタンを押してウィークリーリマインドアラーム時刻をセットします。
③ ボタンを押します…ウィークリーリマインドアラーム時刻が進みます。
④ ボタンを押します…ウィークリーリマインドアラーム時刻が戻ります。
- それぞれ押し続けると早送り／戻しができます。
- ⑧ ボタンまたは ④ ボタンを押して、ウィークリーリマインドアラーム時刻を設定するとき自動的にウィークリーリマインドアラーム設定が「オン」になります。



- ウィークリーリマインドアラーム設定を取り消したいときは、⑦ ボタンを押します。押すたびに「オン」と「オフ」が切り替わります。「オフ」にすると、表示されるウィークリーリマインドアラームマークが1つ減ります。



3 2件目のウィークリーリマインドアラーム時刻を設定します

② ボタンを押します。
➡ 2件目のウィークリーリマインドアラームを示す“2”が表示され、時刻は“午後12：00”が表示されます。1件目と同様に、ウィークリーリマインドアラーム時刻を設定します（手順2参照）。
- ウィークリーリマインドアラームが1つ追加されます。

4 <通常表示>に戻します

ここでは、② ボタンを2回押します。
➡ 設定したウィークリーリマインドアラームが表示されます。
- 設定されているウィークリーリマインドアラーム時刻を確認するときは、手順1～4を繰り返します。
- 設定されているウィークリーリマインドアラームを取り消すときは、手順1～4を繰り返し、手順2で取り消したいウィークリーリマインドアラームを「オン」から「オフ」に切り替えます。

電波受信機能を解除するには

電波受信機能を解除するときは、<通常表示>で ⑧ ボタンを8秒以上押してください（「各部の名称と表示の見方」参照）。
➡ “受信オフ”マークが点灯します。
- “受信オフ”マークが点灯しているときは、「電波の自動受信機能」および「⑧ ボタンを押して電波を受信する機能」は動作しません。日付、時刻合わせは、手動で設定してください（「電波を受信しにくい場合」参照）。

- 電波受信機能を使うときは、解除のときと同じ操作を繰り返します。“受信オフ”マークが消灯します。

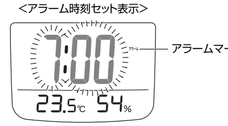
アラーム機能の使い方

毎日、同じ時刻にアラーム音を鳴らすことができます。⑤ スイッチの切り替えて、止めても繰り返し鳴るスヌーズアラームを選ぶことができます。

1 アラーム時刻を設定します

⑥ ボタンを押します（「各部の名称と表示の見方」参照）。
➡ <通常表示>が<アラーム時刻セット表示>に切り替わり、“アラーム”マークが点灯するとともにアラーム時刻が点滅します。
- 約5秒間何も操作を行なわないと、自動的に<通常表示>に戻ります。

<アラーム時刻セット表示>



③ ボタンまたは ④ ボタンを押してアラーム時刻をセットします。
③ ボタンを押します…アラーム時刻が進みます。
④ ボタンを押します…アラーム時刻が戻ります。
- それぞれ押し続けると早送り／戻しができます。

⑥ ボタンをもう一度押して<通常表示>に戻します。
- アラーム時刻を確認したい場合は、⑥ ボタンを押して表示します。表示後、もう一度 ⑥ ボタンを押して<通常表示>に戻します。

2 スヌーズ／オン／オフを設定します（⑤ スイッチを使います）

⑤ スイッチの位置でアラームのスヌーズ／オン／オフが設定できます。

⑤スイッチ	鳴り方
スヌーズ SNZ	アラーム時刻になるとアラーム音が約1分間鳴ります。なお③ボタンを押してアラーム音を止めても、5分おきにアラーム音が鳴ります。この動作を最大で7回繰り返します。 • スヌーズマーク（**SNZ**）が点滅しているときは、アラーム音が再び鳴ります（スヌーズアラーム機能中）。
オン	アラーム時刻になるとアラーム音が約1分間鳴ります。
オフ	アラーム時刻になってもアラーム音は鳴りません。

- アラーム音は1分間5段階でだんだん変化します。
- ⑤ スイッチを「スヌーズ」や「オン」の位置にしたときは、自動的に約5秒間<アラーム時刻セット表示>になります。③ ボタンまたは ④ ボタンを押してアラーム時刻を変更することができます。

● 鳴っているアラーム音を止めるには
- 鳴っているアラーム音を止めるには、① ボタンを押します（スヌーズアラームのときは再び鳴ります）。
- スヌーズアラーム機能を解除するには、⑤ スイッチを「オフ」にします。

● アラーム音をためしに聞くには
⑦ ボタンを押すとアラーム音を約1分間聞くことができます。再度 ⑦ ボタンを押すと音が止まります（「各部の名称と表示の見方」参照）。

時刻表示を切り替える

時刻表示を12時間制または24時間制に切り替えることができます。
「電波を受信しにくい場合」の手順1～3を参照し、12時間制と24時間制を切り替えます。
12時間制に切り替えた場合：午後の時間帯には、“午後”マークが表示されます。
24時間制に切り替えた場合：“24H”マークが表示されます。

表示のコントラストを調整する

コントラストを1～7の範囲で調整できます。
「電波を受信しにくい場合」の手順1～3を参照し、コントラストを調整します。